

プログラム近況報告

スリランカ民主社会主義共和国 ガンガ・イヘラ・コーラレ地域開発プログラム(LKA-196089)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

活動開始から2年目を迎え、 子どもたちが学ぶ環境が少しずつ改善されています

ガンガ・イヘラ・コーラレ地域開発プログラム(以下ADP)は、活動開始から2年目を迎えました。支援地域の人々や、地元の政府機関やNGOとの関係構築も進み、子どもの発達、生計向上、地域組織化、スポンサーシップ・マネジメントの4つのプロジェクトで活動が本格化しています。幼稚園や学校の不足、世帯の低収入、5歳以下の子どもたちの栄養不足等多くの課題を抱えていますが、地域の人々が主体的に課題解決に取り組めるよう、活動を進めています。



成長報告の作成にあたっては、子どもたちが楽しんで参加できるよう工夫しています



チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長とともに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長

片山 信彦



ADPマネージャーからのごあいさつ

スリランカより、心からごあいさつを申し上げます。

ガンガ・イヘラ・コーラレADPは、2013年度の活動を神様の恵みによって終えることができました。皆さまの継続的なご支援と価値ある貢献は、皆さまのチャイルド、その家族、そしてコミュニティ全体に意味のある変化をもたらしています。このプログラム近況報告でお伝えするのは、子どもたちの人生に希望をもたらすために、ワールド・ビジョンが子どもたち自身、その家族、またコミュニティとともに行った活動の一部です。子どもたちが夢を実現し、健やかに幸せに成長できるように手助けするための旅を、私たちは皆さまと一緒に歩んでいます。皆さまがこのプログラム近況報告と、チャイルドの成長報告を楽しんでいただけることを願っています。

マリアン ウィラコッティ (ガンガ・イヘラ・コーラレADPマネージャー)



子ども発達プロジェクト

幼稚園に通う子どもたちが84% (2012年) から99%に増加しました

子どもたちが健やかに成長する上で、教育は最も重要な要素の一つです。しかし、ADPの支援地域は、支援地域のある州の中でも最も貧しい地区の一つで、人口の半数近くが1日1ドル以下の生活を強いられています。そのため、経済的な困窮や保護者または両親の子どもへの教育に対する無理解等から、多くの子どもたちが学校に通うことができません。また、設備が不十分な学校や幼稚園も少なくありません。

子ども発達プロジェクトでは、子どもの教育の重要性について両親への啓発活動を行いました。その結果、幼稚園に通う子どもたちが84% (2012年) から99%に増加しました。また、地区の教育省等の協力を得て幼稚園の教師を対象とした研修を2回実施し、51人の教師が参加しました。合わせて、8カ所の幼稚園に教材や遊具を支給し、子どもたちが学ぶ環境が少しずつ改善されています。



幼稚園への遊具の支援を行いました。貧しい家庭の子どもたちも、楽しんで幼稚園に通い、小学校へ進学後に勉強について行けないため中退することを防ぐことがねらいです

幼稚園の子どもたち。支援により学習環境が改善されています

新たに12の子どもクラブを設立しました

また、子どもたちが成長する上で必要なスキルを身につけられるよう、「子どもクラブ」の活動にも力を入れました。子どもクラブには、1グループあたり60人程度の5～18歳の子どもたちが参加し、自分たちで年間の計画を立て、運営しています。2013年度は新たに12の子どもクラブを設立し、子どもの権利について学んだり、リーダーシップを育てるためのトレーニングを受けたり等、様々な活動を行いました。加えて、地元の政府機関の協力のもと、13人の障がいがある子どもたちに医療支援を行いました。またそのうち約半数の子どもたちが、子どもクラブの活動にも参加しました。



子どもクラブのリーダーとしてトレーニングを受けた子どもたち

生計向上プロジェクト

各世帯での食料確保に力を入れて取り組み、子どもたちの栄養状態が改善されています

子どもたちが健やかに成長するためには、両親の収入が安定していることが大切です。支援地域の人々は伝統的に農業で生計を立てていますが、生産性は高くなく、年間を通じて十分な食糧を確保することができません。地域の医療施設や衛生設備が十分でないことから、5歳以下の子どもの26%が低体重、4%が深刻な栄養不良となっています(2011年時点)。2013年度、生計向上プロジェクトでは、世帯での食糧確保に力を入れました。具体的には、51世帯に家庭菜園を始めるためのトレーニングを実施し、種、資材を提供しました。また、特に経済的に貧しい24世帯にヤギを支給し、飼育のためのトレーニングを実施しました。支援地域ではヤギのミルクは牛乳よりも高

く売れるため、貴重な収入源になります。また、数世帯でグループを構成して保険に入り、生まれた仔ヤギをグループ内のほかの世帯に供給することで、支援の輪が広がっていきます。

また、特に栄養状態の良くない5歳の子どもたちを対象に、栄養改善プログラムを実施しました。このプログラムでは、現地で入手できる、安価で栄養価の高い食材を利用した子どもたちのための食事のつくり方を学び、一定期間継続して子どもたちに食べさせ、栄養状態の改善に取り組みます。2013年度は92世帯(母親と子ども)が参加しました。参加した子どもたちの体重などを測り、その推移を観察した結果、33人の子どもたちの状態が改善しました。

障がいがあっても、ヤギの世話を通じて将来への希望を持てるようになりました

アサンカ君(16歳)は幼いころから障がいがあり、9年生まで学校に通っていましたが、ほかの子どもたちとの関係に悩み、学校に行くのをやめてしまいました。そんな時、アサンカ君の住む地域でワールド・ビジョンによる生計向上プロジェクトが始まりました。「このプロジェクトが始まったと知った時、アサンカは農業と家畜の飼育に興味を示しました。どこまでできるかは分かりませんでしたが、トレーニングに参加させることにしました」と、母親のニランティさんは話します。

生計向上プロジェクトでは、経済的に貧しい世帯の収入向上を目指しています。アサンカ君は3頭のヤギを支給され、自分で小屋を設置しました。「トレーニングに参加し

支援されたヤギを大切に育てています



て、ヤギの育て方や病気への対処法などを学びました。ヤギの世話をしていると、言葉にできないくらい充実感を感じます」と、アサンカ君は話します。

「息子は学校に行くのをやめてから、将来がとても心配でした。しかし、このご支援のおかげで彼にも自分ができることがあることが分かりました。今、息子は一生懸命ヤギの世話をしていますし、新しい希望があります。息子の夢は、収入を増やして、私たちの家に電気を引くことです」と、ニランティさんは涙を浮かべながら語ります。

会計報告

収支計算書

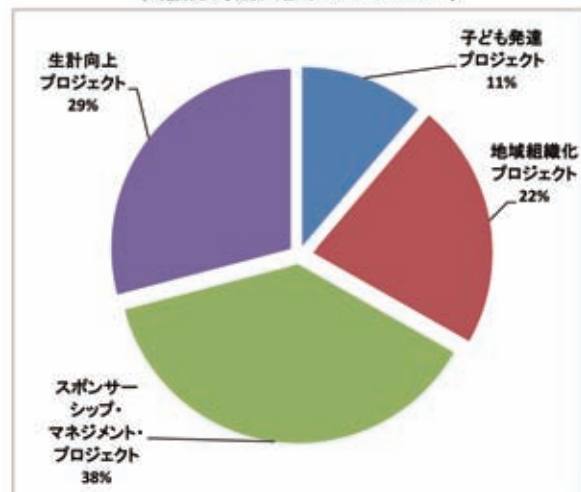
自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

LKA-196089 (単位:円)	
プログラム支援額	
チャイルド・スポンサーシップ	24,553,088
当期支援額	24,553,088
前期繰越金	1,294,261
プログラム支援額合計	25,847,349

プログラム支出額	
子ども発達プロジェクト	2,583,319
地域組織化プロジェクト	5,094,614
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	8,711,937
生計向上プロジェクト	6,727,208

プログラム支出額合計	23,117,078
次期繰越額	2,730,271

支援分野別内訳(LKA-196089)



地域組織化プロジェクト

住民自身が地域の課題に取り組む力をつけていくために研修を行いました

ADPの活動は10～15年の長期間にわたって行われますが、ワールド・ビジョンの支援が終了した後も活動が持続していくためには、地域の人々自身が地域の課題に取り組んで行けるよう、力をつけていくことが重要です。

2013年度、地域組織化プロジェクトでは支援地域内に76の住民組織を設立しました。具体的な活動は次年度以降に始まりますが、各組織が子どもたちの健やかな成長や、地域の発展に主体的に取

り組んで行けるようになることを目指しています。現在も、各プロジェクトの受益者の選定は各住民組織によって行われています。

また、地域のリーダー66人がスリランカ国内の別のADPを訪問し、現地の人々との交流を通じてADPや自分たちの果たすべき役割についての理解を深めました。さらに地元の政府機関の職員98人に運営管理能力向上の研修を実施しました。



住民組織のメンバーへの研修を行いました。地域で効果的な活動を行うことを目指し、コミュニケーション技術について学びました



地元の政府機関の職員へ運営管理能力向上の研修を実施しました

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。



クリスマスカード作成のため開催されたイベントの様子。折り紙を折ったり、歌を歌ったり子どもたちが楽しんで活動に参加できるよう工夫しています

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX:03-5334-5359

e-mail : dservice@worldvision.or.jp ホームページ : www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載しております。ホームページにぜひお立ち寄りください。

プログラム近況報告

スリランカ民主社会主義共和国 リディマリヤッタ地域開発プログラム(LKA-196092)

2013年度(2012年10月1日～2013年9月30日)

人口の約半数が貧困ライン以下で生活している地域で、本格的な活動を開始しました

リディマリヤッタ地域開発プログラム(以下、ADP)では、必要なスタッフの採用が難しく、活動の実施が遅れていましたが、2013年度ようやくスタッフがそろい、本格的な活動を始めることができました。リディマリヤッタ地区は州の中でも特にへき地にあり、人口のうち約52%がスリランカ政府の定める貧困ライン以下で生活している、スリランカ国内で2番目に貧しい地域の一つです。ADPスタッフの多くが平日は単身赴任を

して、地域の人々や政府機関の関係者などとの関係を構築しながら、保健衛生、教育、スポンサーシップ・マネジメントの3つのプロジェクトを実施しました。



地域の幼稚園に通う子どもたち

チャイルド・スポンサーの皆さま

日ごろより、チャイルド・スポンサーシップを通して、温かいご支援を賜りまして、心より感謝申し上げます。2013年度の活動報告として「プログラム近況報告」と、チャイルドの「成長報告」をお届けいたします。昨年度も活動を進めることができましたのは、子どもたちを思い、継続的にご支援をくださる皆さまのおかげと、感謝しております。

この1年の地域支援における活動の成果、今後の課題をご確認いただくとともに、チャイルドの成長とともに喜んでいただけますと幸いに存じます。

皆さまのチャイルド、そしてすべての子どもたちが健やかに成長できる地域となることを目指し、活動を続けてまいります。

皆さまの尊いご協力を、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人
ワールド・ビジョン・ジャパン
常務理事・事務局長

片山 信彦



ADPマネージャーからのごあいさつ

親愛なるスポンサーの皆さま

リディマリヤッダから、ごあいさつ申し上げます。

リディマリヤッダADPを支え、私たちのパートナーとして歩んで下さっていることに、心から感謝いたします。皆さまのご支援により、教育、保健衛生、生計向上の分野で活動を行うことができました。その最終目的は、地域に住む最も貧しい子どもたちやその家族の人生に、持続的な変化をもたらすことです。また私たちは、皆さまがご支援くださっているチャイルドとの関係を育み、ご支援によってチャイルドやその家族の人生にもたらされている変化を、皆さまが実感できるよう努める責任があると信じております。皆さまの人生が、平和と喜びに満ちたものでありますように。心からの感謝とともに。

シカ サマラスンガ (リディマリヤッダADPマネージャー)



保健衛生プロジェクト

仕立てや畜産などの職業訓練を行い生計向上に取り組みました

子どもたちが栄養価の高い食事をとり、健やかに成長するためには、各家庭の収入が向上し、家計が安定していることが重要です。そのため、子どもたちとその家族の健康状態の改善を目指す保健衛生プロジェクトでは、特に貧しい世帯を対象とした生計向上、家計管理、家庭菜園などにも取り組みました。

家庭菜園で野菜を育て、子どもたちの健康状態の改善を目指しています



生計向上のため、養蜂の技術を学んだ父親。採れた蜂蜜を見せてくれました

まず、52世帯がそれぞれの状況やスキルに応じて、仕立て、畜産、石工、養蜂などによって生計を向上させるためのプラン (Family Development Plan) を作成しました。うち、5世帯に小規模ビジネスを始めるためのトレーニングを、18世帯に貯蓄グループを始めるためのトレーニングを実施しました。貯蓄グループの活動が始まれば、家計管理の上でも役立ちます。また、地域の農務省の協力を得て、248世帯により環境に優しい技術を使った家庭菜園のトレーニングを実施しました。さらに、女性が世帯主の世帯、障がい者や5歳以下の子どもがいる世帯、特に弱い立場に置かれた23世帯に、鶏や飼育小屋の資材を支給しました。

子どもの栄養や母乳育児の知識を伝え、乳幼児の栄養改善を目指し活動を行いました

5歳以下の子どもと母親たちの健康状態の改善のため、地域の保健省の協力を得て保健ワーカーへの研修を行いました。また、子どもの栄養や母乳育児についての啓発活動、特に栄養状態の悪い子どもたちの改善に取り組むボランティアグループを結成し、子どもたちの発育記録を始めました。さらに、14～18歳の若者たちに早婚やHIV/エイズの危険性についての啓発活動を行いました。

学校と協力し、手洗いなど衛生的な習慣を身に付けることの大切さについて啓発する活動を行いました



..... 長年の夢だった仕立て屋を始めることができました

スサンタさんは妻と1人娘を養うため、いつか自分の店を開くことを夢見ながら、町の仕立て屋で懸命に働いてきました。しかし家計は厳しく、地域でも最も貧しい世帯の一つでした。「私には、娘に良い教育を受けさせてやる責任がありました。私の給料では日々の必要や娘の教育費を満たすことすら難しく、店を開くことはとてもできない状況でした」と、スサンタさんは語ります。

ある日、上司から古いミシンを借りたスサンタさんは、仕事を終えてから自宅で仕立て業を始めましたが、ミシンの月々のレンタル費が重荷になっていました。そんな時、ワールド・ビジョンがADPを始め、生計向上の支援を受けることができるようになりました。スサンタさん



スサンタさんと家族

は仕立て業を始めるプランを作成し、トレーニングを受けた後、新しいミシンが支給され、自宅で仕立て業を始めることができました。ミシンの購入費は、2/3をワールド・ビジョンが、1/3をスサンタさんが負担しました。

「トレーニングを受ける中で、家族の状況を良くするためには、まず、私自身が行動することが何より大切だと気づきました。今、少しずつお客さんが増えていて、とても幸せです。ほかにも、家庭菜園の支援を受けて新鮮な野菜を栽培し、その分の食費を貯金しています。収入が増えて、家族を養い、特に娘に教育を受けさせる自信がついてきました。私の次の目標は、私のように何かを始められるように、地域の人たちをサポートすることです。」

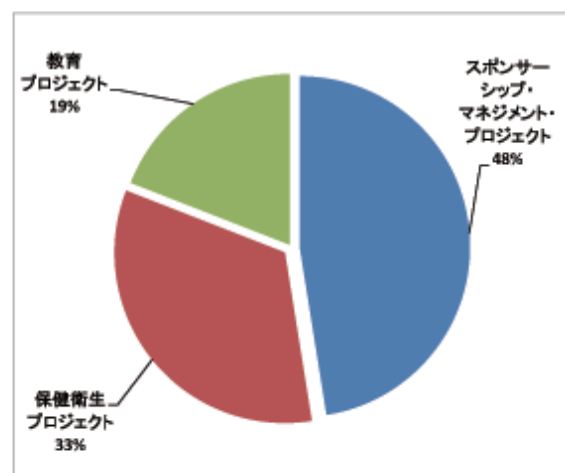
会計報告

収支計算書

自 2012年10月1日 至 2013年9月30日

	LKA-196092 (単位:円)
プログラム支援額	
チャイルド・スポンサーシップ	24,759,744
当期支援額	24,759,744
前期繰越金	419,405
プログラム支援額合計	25,179,149
プログラム支出額	
スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	10,739,973
保健衛生プロジェクト	7,565,967
教育プロジェクト	4,318,487
プログラム支出額合計	22,624,427
次期繰越額	2,554,722

支援分野別内訳(LKA-196092)



教育プロジェクト

学習環境の改善と、教育の重要性についての啓発活動に取り組みました

教育プロジェクトでは、子どもたちが単に学校に通うだけでなく、子どもたちが健やかに成長する上で必要な知識を、子どもたち自身、そして地域の人々が身につけることを目指しています。今年度は州・県・地区レベルの教育機関との関係構築に力を入れながら、支援地域の子どもの学習環境の改善や啓発活動に取り組みました。

まず、就学前教育センターの教師69人に研修を行ったほか、幼稚園への遊具の支給、小学校の教師用宿泊所の改修を行いました。また、10の「子どもクラブ」を設立し、12～18歳の子どもたち105人にリーダーシップなどについてのトレーニングを行いました。さらに、子どもたちの両親や保護者に向けて教育の重要性や、子どもたちにとって安全な環境を作っていくことの大切さについて啓発活動を行いました。

また、特に取り残されがちな障がいを持った子どもたちが地域の活動に参加していけるよう、新年をお祝いするイベントを開催し、障がいを持った子どもたちを含む30人の子どもたちが参加しました。



幼稚園の学習環境改善のため、遊具が支援されました。子どもたちが楽しんで幼稚園に通い、小学校へ進学後、勉強について行けず中退することを防ぐことがねらいです



12～18歳の子どもたち105人にリーダーシップなどについてのトレーニングを行いました

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト

地域の人々と協力し、子どもたちの成長を見守っています

「スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト」では、チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。



スポンサーシップの活動に参加する地域の子どもたち

リディマリヤダADPでは、2013年度からチャイルドの紹介が始まり、地域の人々や政府機関のチャイルド・スポンサーシップについての理解も少しずつ深まっています。地域の人々がボランティアとして協力し、定期的にチャイルドを訪問し成長を見守っています。

また、地元の教育省とお絵かき大会を開催し子どもたち(チャイルド以外、障がい児も含む)が参加したほか、保健省の協力のもと650人の子どもたちに歯科検診を実施し、歯ブラシと歯磨き粉を支給しました。

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン

電話：03-5334-5351 FAX:03-5334-5359

e-mail: dservice@worldvision.or.jp ホームページ: www.worldvision.jp

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動についての最新情報を掲載しております。ホームページにぜひお立ち寄りください。